

教団新報

定価 1部140円(本体133円+共200円)
予約購読料 1年分 干共 5,000円
紙代のみ 3,500円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内 電話
03(3202)0546
FAX03(3207)3918
発行人 内藤留幸
編集主筆 竹澤知代志



重圧を感じる議案が山積の常議員会、聖書朗読と祈祷で開会

第35総会期

第3回常議員会

「教師退任勧告」の議案を可決

今常議員会の関心は「北村慈郎教師に対し教師退任勧告を行う件」に集中した。常でない程の陪席者があり、組織会時から議案の取り下げを要求する声がかかるなど、白熱した(二面に記事)。一方で、「合同のとらえなおし」、教区活動連帯金配分協議会の法的位置づけについて、地震被災教会の支援、等々、多くの重要案件・課題を抱え、それらの審議にも多くの時間が割かれた。

議案巡り、開会時から議論白熱

一〇月二日、三日、教団会議室において第35総会期第三回常議員会が開かれた。出席は開会時二八名、最終二九名の出席となった。要求陪席者が開会時点四七名と、山北宣久議長から提案された「北村慈郎教師に対し教師退任勧告を行う件」への諸教会の関心を示した。本議案は、直接には、第二回常議員会における聖餐に関する懇談会で北村教師が未受洗者に聖餐を執行しているとの報告を受けた。一〇月三日、二三日、十六名の賛成により議事日程が承認された。この「教師退任勧告」議案を取り下げるよう強く訴えられた。本常議員会前には、同等の取り下げ要望・抗議が奥羽、神奈川、京都、兵庫、東中国、西中国、九州の各教区から、また紅葉坂教会からは質問書が常議員会宛てに送られていた。取り下げ要望には実質、内容の審議に触れるものも含まれていたため、当該議案が扱われることにて議論すべきと判断され、二八名中

併号、第二回常議員会報告に聖餐に関する懇談会の内容が掲載されたことに、議事録を作成しないとして開催された懇談会を新報が報告するべきではないとする意見。四六三五号、宣教委員会報告に聖餐に関する懇談会を受けての要望書全文が掲載されたことに、常議員会宛ての要望書が新報に先行して掲載されてはならないとする意見である。これに対して指名を受けて竹澤知代志新報主筆は、懇談会は公開された議事であったこと、懇談会報告はこれまででも掲載されてきたこと、諸委員会報告は報告者の原稿を尊重し取扱ってきていることを答弁した。連帯金配分協議会については、総幹事預かり委託としたのは協議会の位置づけを明確にすることであった。連帯金そのものの性格付けについての検討は委ねていない、との指摘があった。一方で、教区間の信頼関係の失われているところでは、協議会の存続、また連帯金そのものの意味が変質してきている、との意見もあった。三里塚教会申請書の取り扱いについては、当該教会より申請された規則変更承認を教団が承認したこと、説明が求められているものであるが、総幹事は、申請は適法であり書式完備である

議長談話

去る一〇月二日、三日開催された第35総会期第三回常議員会にて「北村慈郎教師に対し教師退任勧告を行う件」を可決致しました。「未受洗者への配餐を直ちに停止するか、さもなければ速やかに日本基督教団を退任されることを勧告する」との内容です。未受洗者への聖餐の執行は、教憲教規に違反し教団の不一致をもたらす、教会の生命を危うくします。各教区、各個教会においても正しい聖礼典の執行による教会形成に励み、伝道する群れとなりつつけられるよう心して下さい。二〇〇七年一〇月二日 宗教改革記念日 教団総会議長 山北宣久

てられることとなった。二二日夕食休憩後には、「予算決算委員会報告」「教団監査委員会報告」「08年度教団歳入歳出予算に関する件」「08年度標準報酬月額および掛金表報告」が審議され、何れも原案通りに承認。可決された。以前に比較して諸会計報告の形式が整い、分かり易くなったと評

「合同のとらえなおし」実質審議の上、継

『合同のとらえなおしに関する件』については、山北宣久教団議長が「特に新しく議案という形で上がっているわけではないが、これまで、基地問題をめぐる声明など、様々な事柄について対応してきた。今日も、時間の許す限りで、協議の時間を取りたい」と述べた上で、この件について意見を求めた。常議員の中から「沖縄教区」その他「第25回教団総会区」内の教団名義財産について、調査報告結果はいつ頃出るのか。特に沖縄教区の場合、合同議定書との関連もあるのではないか」との質問があり、内藤留幸総幹事は「前任者との引き継ぎが途中で、時期について明言するのは難しいが、発言を受け止め、なるべく早く調査報告できるようにしたい」と答えた。しかし、この件につ

いては第28回教団総会決議もあり、このことは全教団的に取り上げることとなり、そして全教団的な議論をした結果として意見の一致が見出されることなく、現在に至っている。25回総会の決議だけを言うのではなく、そのような経過を良くふまえて事に当たらない」との別の意見も出された。また知花正勝沖縄教区議長は、承認された。



知花沖縄教区議長、復帰時の状況等について説明

「未受洗者配餐」の是非を巡り議論沸騰 北村慈郎教師に対し教師退任勧告を行う件

二日目は、「北村慈郎教師に対し教師退任勧告を行う件」が上程された。議長が提案者のため小林貞副議長が議長を務めた。この件については、いくつかの教区や教区議長などから要望書や抗議、質問が常議員会や議長に寄せられていたため、山北宣久議長はまず冒頭で、そうした抗議・要望等に応答する形で議案の趣旨を述べた。

第二回常議員会における「懇談会」について、これは常議員会の記録には載せないということだったため、懇談会での北村常議員の発題を問題にしているこの議案は「だまし討ち」ではないかとの批判が、議論の中でもあった。それに対して山北議長は、「あの懇談



勧告決議を巡り、激しい議論が交わされた

す」と答え、「聖餐に関する議論を経ていない」との批判には「聖餐論はいろいろあってよいが、聖餐の執行は別である」「何を言ってもよい教団は、何を行ってもよい教団ではない」との考えを述べた。その他、常議員会で退任勧告はできるのか」など、手続き論に関する問いにも答えた。

常議員から賛成と反対の発言がほぼ交互に聞かれた。反対意見としては主に手続きに関するものと、対話を続けるべきであり本提案は取り下げるべきとする主張であった。「教規第三五条の、常議員会の処理すべき事項の内、どれによるのか」「北村氏の行為はどの条項に抵触したのか」「思想信

条の自由には抵触しないか」「この議案は卑劣な議案だ。かねてより未受洗者への配餐の事実を知っていたと言いが、それであれば懇談会での発題を依頼したのもよい教団ではない」との混戦を惹起した。これらの反対意見に対し、山北議長は「議長の総括行為である」「常議員会として声明、意見表明はできる。まして信仰職制の問題について、それをゆるがせにできない。ようやく常議員会で扱える状況になった。何によって教団は一致するのか、それは常議員会の最優先の課題だ」と答え、他の常議員から「未受洗者配餐が教団内で行われていることは事実であり憂慮している。教規

の準則には、洗礼を受け信仰告白をしている者が与るという規定がある」などの賛成意見が述べられた。北村常議員は、「かつて紅葉教会が第八条削除の申請を出した際、教団の方が紅葉坂教会にアクションがあったかのようなことを山北議長は言ったが、何もなかった」と教団の対応を問題にしたが、北村常議員が属する神奈川教区の常議員は、「神奈川教区は、教

会教規に反する規則は教区で扱えないということと紅葉坂教会の規則変更承認申請を教団に上げた」と事情を述べた。また、神奈川教区の他の常議員から、「神奈川教区は様々な立場が話し合ってきた。本議案はそれを破壊するものであり、神奈川教区は教団と距離を置くことを考えざるを得ない」とする厳しい批判も聞かれた。

議案に賛成の立場からは、山北議長と同様の趣旨の発言の他、「教会にとって生き死にの問題であり、同じ教団の中で聖餐執行において相反することは成り立たない」「教憲教規や聖礼典

についての定めの変更は各個教会の事柄ではない。教団は公同教会の一員であり、そういうものとして聖礼典を考えるべき」「何らかの措置を取らないとすれば、教団に対する信頼を失う」「依って立つところが異なるなら、喧嘩するのでなく、仲良く分かれるべき」などと主張された。

午前中一杯意見が交わされ、小林副議長は採決の可否を諮った上で採決に入ら、議案は、出席二九名中賛成十六名で可決された。なお、議事後、重大な内容の採決を強行したこと

被災教会云々堂等再建支援委員会報告

「新潟県中越地震」

小橋孝一委員長は、七月の第二回常議員会で募金目標額が一億八千万円に定められたが、募金累計額が九月現在で一億六千万円を超えたことを、「感謝をもって報告し、年度内には必ず、なるべくならクリスマス献金での達成を願っている」と述べた。被災五教会の現況は、次のように報告された。

①十日町教会牧師館建設、九月起工十二月完成予定。

②見附教会新会堂建設、七月着工十一月完成予定。

③小出教会保育園補修工事を先行、一〇月末完成予定。新会堂建設着工は〇八年春以降。

また、募金目標を早期達成し、「能登半島地震」の再建支援に集中する環境を作るべきことを強調した。

足田國磨呂関東教区議長は、前日に長岡教会で持った「被災地・被災教会を

は宣教百年を迎え、具体的に記念誌の出版や神学校の設立などを記念事業として掲げていること等と比較して、方向性、内容ともに具体的に打ち出すべきとの意見も出された。内容等はこれから吟味してゆくことを前提として、一五〇周年記念行事を行うことが賛成十六で可決された。

「第21号議案 米軍再編に抗議し全国の米軍基地撤去を求める声明を内外に向けて公表する件」は、提案者が提案文を朗読、趣旨を補足した。賛成十六で可決された。

「追加議案1 第二次大戦下における日本基督教団の責任についての告白40年を覚えて記念集会を催す件」については沖縄教区との合同の時に沖縄からも批判が出たことを踏まえ、問

題を捉え直す作業が必要との見解が示され、一貫した見解を持つ必要があるとの見解から賛成十二で否決された。

(辻順子報)

教団の根幹に関わる具体的な議論を展開

聖書・信仰告白・教憲教規、平和・差別

二日目午後は、午前中に審議できなかった17号議案から議事が再開された。

在外教師の按手礼執行前回の常議員会から継続して審議されてきたヘルリン日本語教会の秋葉睦子補教師の按手礼執行について、木下宣世世界宣教委員長から「日本で教区に属しておらず、受按が困難である。ヘルリン日本語教会は現在聖礼典のない礼拝を守

つており、秋葉教師の受按が切実に待ち望まれている」と説明があり、山北宣久議長から「世界宣教委員会の立場に合わせて、議長が按手礼式を執行する」方針が上程された。

日本伝道150年 近く日本伝道が開始されてから一五〇周年を迎えることが報告された。過去に五〇周年、一〇〇周年は記念行事が行われてきたことを受け、一五〇周年も教団

成立時の歴史や、その後教団自身が教会を生み出した歴史などを受け止めなければならぬと言っ見解が示され、一％に満たない日本のクリスチャンが協力しながら伝道を展開していく機会であること、東洋伝道とも深い関わりを持つ出来事であることなどが議場に提示された。信徒議員からは、是非信徒の集まりを行いたいとの希望も示された。一方で在日大韓キリスト教会

同性愛者差別発言に関する学習会

提案者から「聖書の言葉によつて差別が起こっている」「現状が報告され、二度と起こさないように皆で学ぶことの重要性が説かれ

た。一方で、「当事者不在で差別発言と断定して協議会を開くのは、当該議員の立ち直りの機会を奪うことになり、危険である」との見解も示された。さらに丁寧な議論が必要との見解が示された結果、賛成十二で否決された。

その他の議案

「第21号議案 米軍再編に抗議し全国の米軍基地撤去を求める声明を内外に向けて公表する件」は、提案者が提案文を朗読、趣旨を補足した。賛成十六で可決された。

「追加議案1 第二次大戦下における日本基督教団の責任についての告白40年を覚えて記念集会を催す件」については沖縄教区との合同の時に沖縄からも批判が出たことを踏まえ、問

題を捉え直す作業が必要との見解が示され、一貫した見解を持つ必要があるとの見解から賛成十二で否決された。

(辻順子報)



西澤宏常議員、第 21 号議案の主旨を説明する

ら、献身者、牧師夫人が生み出されたことに言及して、その守るべき信仰的価値を強調した。また、被害診断は専門的観点から判断して貰っていること、委員希望・対応策を持たなければならぬという意見が述べられた。

「能登半島地震」

長山信夫委員長は、七尾、羽咋、輪島の三教会と富来集会所の被害状況を詳しく説明し、また富来集会所か

た。一方で、「当事者不在で差別発言と断定して協議会を開くのは、当該議員の立ち直りの機会を奪うことになり、危険である」との見解も示された。さらに丁寧な議論が必要との見解が示された結果、賛成十二で否決された。

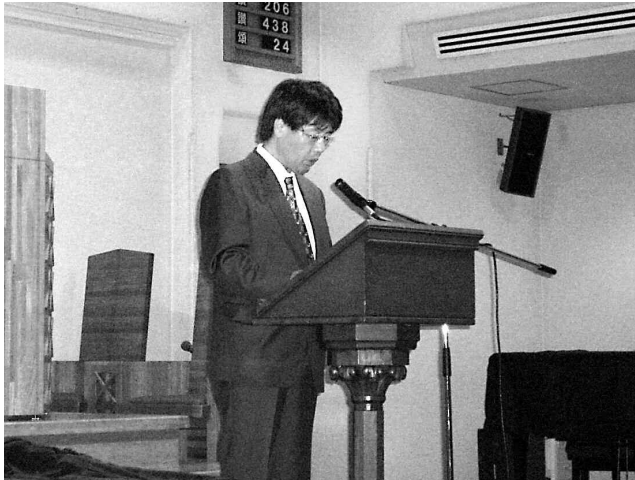
高橋潤中部教区議長は、教区常置委員会を輪島で開催、被災教会と交わりを持つたことを報告し、各教会

の現況を詳細に報告した。また、小林貞夫常議員が「阪神淡路大地震」の第二次募金について、「常議員会で協議されないままになつてはならない。このことは新総幹事にどのように引き継がれていくのか」と質問したのに対して、菅根信彦兵庫教区議長は、「二次募金は未だ活用用途上で要望がある。会堂を再建しても返済に苦しむ教会がある」と答え、また「総幹事との折衝は続け、対話も始めて行きたい」と述べた。内藤留幸総幹事は、「協議を、早急に始めたい」と述べた。

(編集部報)

伝道拠点の再建は私たちの責務 中越地震を覚える特別礼拝・東京教区

教団が「中越地震被災教会・被災地を覚える主日を制定したのを受けて、東京教区の中越地震被災教会を覚える特別礼拝が、一〇月二八日午後、霊南坂教会で行われ、十教会から七〇人



報告する飯塚関東教区副議長

本の隅々にまで伝道の拠点を保持していることで、その拠点を失うことは、その地域から事実上伝道の手を引くことになる。その教会の再建は、教団全体で負うべき私たちの責務だ。パウロのいうように、私たちはキリストの体なる日本基督教団の枝々であり、教区が腕であれば、各教会は一本の指だ。私たちがこの三年間行ってきたことは、左腕の指の血を右腕の指に流すことだった。この血が循環することによって、体全体が一つの命を生きていくことが出来る。パウロが命をかけて、異邦人教会で募金したものをエルサレム教会に届けたのは、単にエルサレム教会を助けるだけでなく、異邦人教会とエルサレム教会が一

つに属していることを証しするためだった。私たちに与えられているキリストの血は、もう一息中越の諸教会に流れねばならない。その血が十分に流れれば、私たちは一つの体の枝として生かされていることの証しを見ることが出来る。礼拝では、関東教区が制定した交読文形式の「共同の祈り」を祈った。「繰り返された大きな揺れを経験しながらも、主の慈しみに生きる人と人との間、主の教会と教会の間が近くなっていることを感じています」と呼びかける祈りは、被災各教会の現状に触れつつ、「一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれば、すべての部分が共に喜ぶのです」で締めくく

を求めて募金を訴え、小出教会の米の産直販売への協力を要請した。この報告を受けて、東京教区の永井清陽委員長が「一〇月十八日現在で一億六五五三万円余と目標一億八〇〇〇万円の九二%、あと一息のところまで到達した。能登半島地震支援募金も始まっており、中越募金は今年度内に何とかして目標を達成したいと願っている。クリスマス献金が成否の鍵を握っている」と諸教会の協力を訴えた。この後、霊南坂教会オルガン奏の今井奈緒子姉のバイオリン演奏が行われ、バツハ「バビロンの流れのほとり」にて、プレトリウス「我らが神は堅きとりで」二曲の演奏に聞き入り、た。

東京神学大学 〒161-0015 三鷹市大沢3-10-30
☎0422(32)4185
第39回 教職セミナー
主 題 「聖餐」
日 時 二〇〇八年一月八日(火)十日(木)
会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター
開会礼拝
主 題 講演 「聖餐」
シンポジウムⅠ
シンポジウムⅡ
特別講演 「ホロスとキリスト教」
シンポジウムⅢ
閉会礼拝
会 費 二五、〇〇〇円
申 込 案内が届いていない場合は、郵便振替(00160151188941 東京神学大学学外活動委員会)に会費を振り込んで下さい。振替用紙の通信欄に、性別、生年月日、教会名(東神大卒の方は卒業年)明記して下さい。
申込締切 十二月一日(土)
問合せは学外活動委員会まで。
参加資格は原則として現在教職である方に限ります。日本基督教団外の方も歓迎します。

元宣教師を訪問する計画を承認 第3回世界宣教委員会

第三回世界宣教委員会は一〇月五日に開催された。この日は、中国の武漢に派遣されていた加藤実・鈴岡宣教師を招いて帰国報告をうけ、慰労を兼ねた昼食会を催した。中国での厳しいキリスト教伝道状況下に

も、確かに主のみ言葉が時かれていることを証してくださった。今回の委員会で特に大切な協議は、以下のとおり。①従来COCが担当していた留学生への奨学金継続のために継続する旨が承認

された。また、財源のひととして、来年度より「世界宣教の日献金」を組み入れることが決定された。②北米関係教会との宣教協約締結は、作業部会を中心に検討中であるが、協約内容を相互に確認し合い、新しい時代に向けての宣教課題や展望を共有し得るものが期待される。時間をかけ検討する方向で継続審議されることになった。③神奈川教区、横浜地区の関連学校、グリーンハウス・ユースセンターの三者が、青年への活動を展開するために、協力関係を築く必要があることが認識され、当委員会が神奈川教区へ協力要請を文書で行うこととした。④日本のキリスト教伝道に居住している元宣教師を訪問するという提案がなさ

会の一層の協力を訴えた。この後、霊南坂教会オルガニストの今井奈緒子姉のバイオリン演奏が行われ、バツハ「バビロンの流れのほとり」にて、プレトリウス「我らが神は堅きとりで」二曲の演奏に聞き入り、た。

東 北 新しい互助体制が始まります 福島純雄

この五月の教区総会で、これまでの謝儀保障規則に代えて、宣教共働連帯金規則を制定した。この新規則に基づいて、次年度から新しい互助制度がスタートすることになった。

旧謝儀保障制度は一九九四年に始まったが、保障受給教会が固定化し、また財源の制約もあって新規受給をストップせざるを得ない状況がここ数年続いていた。保障を受給すれば牧師を招きつる教会

教区 コラム

が幾つかあり、今後もしつた教会が増加するであろう事が予想される。これまではひとつの教会からの現行の制度ではそうした事態に対応できないため、今回の改定がなされたのである。新制度の最大の特色は、宣教共働連帯金の申請主体が地区となった点である。勿論第一次的な受給申請は、その教会が所属する地区に対してなされるのであるが、地区はこれを受けて地区全体の宣教の観点からその必要の是非や受給額を(東北教区総会議長)



退任される加藤実宣教師(右)に退任慰労金を授与する木下宣世委員長(左)

★東京教区原理問題相談会 時11月30日(金)13時〜15時/所11日本キリスト教会館4階会議室/問合せ11東京教区事務所(TEL03-3203-4270)

お知らせ

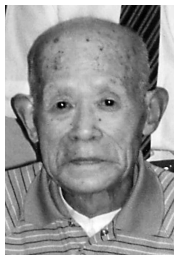
九月二日、逝去。七七歳。東京都に生まれる。一九五五年日本聖書神学校卒業後、五六年から九九年まで深沢教会牧師を務め、隠退した。遺族は妻の文子さん。



村田武一氏(隠退教師)

消 息

土合竹次郎氏(隠退教師)



十月三日、逝去。一〇一歳。富山県に生まれる。一九三四年青山学院大学神学部卒業後、日本メソヂスト教会樺太敷香教会に赴任。三六年から七四年まで秋田檜山教会を牧会。その後、八四年まで土崎教会牧師を務め、隠退した。遺族は娘の菊池安子さん。

宣教師からの声

神の善い業に参加する日々

タヒューン・ヘイゼル
タヒューン・ロバート

(合同メソジスト教会《UMC》からの派遣宣教師)

「あなたがたの中で善い業を始められた方が、キリスト・イエスの日までに、その業を成し遂げてくださると、わたしは確信しています」とパウロはフィリピの信徒への手紙1章6節に記しています。それは大昔そこにいた信徒への約束というだけでなく、伝道するために日本へ導かれた私たちへの約束であるとして受け止め、今それを確信させられています。この約束と神の愛と恵に満ちた働きと支えがあったからこそ、日本に住んで伝道する忍耐と希望が与えられたと言えます。

経済的に豊かではない環境にいた二人ですが、神の不思議な導きによって、大学への道が開かれ、さらに神学校へ進むことが出来ました。同じ神学校を選んで出会う神の面前にともに歩み、奉仕することを決心して結婚。牧師、キリスト教育主事として仕える道に進みました。

ロバートが神学校三年の秋、授業で聞いた外国の教会からの宣教師を求める手紙の内容と、合同メソジスト教会のミッション・ボードからの宣教師募集によって、新たな神からの使命としての献身を決意しました。結婚によって宣教師の夢は終わったと思っていたヘイゼルはその報告を受けて心から喜びました。次の日、二人で早速応募し、認められて、半年のオリエンテーションを受け、一九六八年に日本に派遣されました。

青山学院のスクーメン・カー女子寮にあった外国人宣教師のための一部屋に住んで、一年半日本語学校へ通いました。新しい日本語を学ぶ間、異なる文化の中、巡り会った経堂北教会の四重唱牧師夫妻と教員が、神の愛に満ちた支えをしてくださいました。

招かれた最初の赴任地は鳥取県でした。言葉の足りなさによって多くの問題に直面し、伝道は大変困難でしたが、日本の牧師の協力を得て、主イエスを人に紹介することに励

「あなたがこの「善い業」に参加するきっかけとなったのは、アメリカのペンシルヴァニア州の田舎にいた九歳の時でした。教会の礼拝で朗読されたイザヤ書6章8節の神のみ言葉に感動し、「あなたの

み旨ならば私はあなたの宣教師になります」と、心の中で応答したことからでした。

ロバートは十四歳の夏のキャンプの閉会礼拝中でした。神が彼の心



八頭教会の前で、創立者、鎌谷庄平牧師夫妻(中央とその右)、子恵幸一牧師夫妻、タヒューン一家(1978年)

み、後に青谷教会の主任牧師も経験しました。しかし長女の病気のためアメリカへ一時帰国。回復ののち、再び日本での伝道の道が備えられました。

東京、西新井教会が任地となり、八年間の伝道の場となりました。ヘイゼルはその間に、教団事務局で奉仕を始め、その後COCの人事担当の役割を果たし、現在は合同メソジスト・ミッション・イン

タボード・ミッション事務所の担当として日々奉仕をしています。一方、ロバートは一九九三年より青山学院女子短大の宣教師として迎えられ、同時に東京池袋教会を応援し始め、現在に至っています。

二〇〇八年三月三日をもって、日本における四〇年間の伝道生活に終止符を打ち、退職いたしました。み旨を求めつつ、神様の導きによってこれまで歩むことが出来たことを感謝と喜びをもって振り返ることが出来ます。

同時に、「善い業を始められた方」がこれからどのように私たちを導いてくださるのか、どのように「その業を成し遂げてくださる」のか、私たち二人にとって大きな期待であり、希望であります。

伊豆諸島伝道の現状と今後を語り合う

東京教区伊豆諸島伝道協議会



猛暑といわれた夏も終わり、凌ぎ易くなった十月九日(火)に、二〇〇七年度の伊豆諸島伝道協議会が東京教区東支区内の三崎町教会にて開催された。毎年四月に行われていたが、五月には、伊豆諸島連合修養会が行われたので、今年はこの日の開催となった。

各島の教会から教職と信徒、東京教区各支区から五〇名近くの教職信徒の出席を得、この度日本基督教団総幹事として立てられた内藤留幸師をお迎えし、開会礼拝説教「恐れるな、語り続けよ」との御言葉と説教を頂き、島における確かな教会形成」のテーマに相應しい励ましとお教えを頂いた。島の教会は勿論、都会の信徒にも有意義な礼拝のひとつであった。

昔は、都会でもよく路傍伝道が行われたが、最近はいまも見かけない。教会の中だけに留まらず、地域に溶け込み、とにかく出て行って、主と共にいて導いて下さることを信じ、何も思

い煩わずに恐れず語るようにとの奨励をいただいた。島の各教会から総会資料

をお持ち頂き、また島の現状報告を伺いながら、昼食後懇談の時を持つ。島のさまざまな事情、課題、それらを踏まえて、参加者から、発言、助言がなされ、互いに励まされた懇談の時を終えた。

それから東支区教育委員会主催で行われている中高生連合修養会の報告もあり、今年も各島からも参加者が与えられ、総勢二四名の子供たちが良い経験と交わりを持ち、互いに信仰の養いが与えられているとの報告もあった。その子供たちが進学、就職などで島を離れていく時が来る。是非、東京の教会は彼らを受け入れ、信仰生活を育て、見守

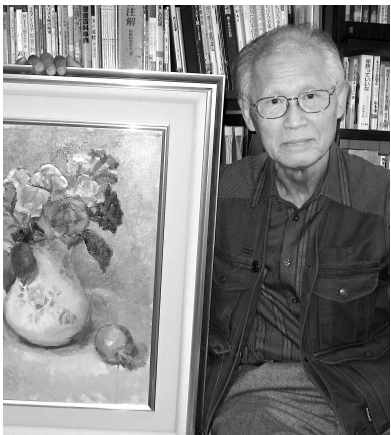
ってほしいと語られた。最後に、このキャンプの指導をして下さっている江戸川松江教会牧師山下泰嗣師の司会により四方海に囲まれた島の教会がこれからもキリストの福音の灯火を灯し続けられることを願

い、閉会祈禱をもって、今年の伊豆諸島伝道協議会が主の導きのもとに終えることが出来感謝であった。(笠原康子報)



寺西 信彦さん

見えないものに目を注ぐ



1925年生まれ。82歳。初雁教員。

日本基督教会の牧師家庭に生まれる。一歩幼かったので礼拝の時間は、一人で牧師館にいる事が多かった。その頃、礼拝堂からの歌声が心に響いてきた。その曲は、ハレルヤコーラスであり、それ以来、心に響く美しい音をいつも求め続けている。

その後、父は教会を辞し、目黒で幼稚園を経営する。園舎の一部が自宅であり家庭環境は余り良くなかった。学生時代は、受験競争とスバルタ教育に大きな反発を覚え、家にあった教育講座や関係書物を読み漁った。暗闇のような現実と、教育の理想の明るい世界との落差にどちらが本当なのかと悩んだ。

年に地方の代用教員となり、学生生活を終えてから正式な教師となる。絵が好きというだけで美術の教師となったので、絵の何たるかを何も知らなかった。だから、とにかく良い絵を見ようとう美術館に通った。フランスの後期印象派、セザンヌの絵を三三年間、週に一度見続け、心で感じて、どのように描くか、を学んだ。この課程で、光と闇の関係が絵画には必要で特に光の重要性に気づいた。光を表すのは白だが、色を混ぜた白は光とならずに白っぽいだけ。光と闇は同等ではなく、光があつてそれが当たっているからこそ目に見えるが、光が当たらなければ

は暗闇のままと悟った。信仰も神の威光が無ければ神を見ることはない。聖書の御言葉に聞き続けることが信仰と自分自身を深めていくと確信している。

教師を退職した今、自分自身を見詰め、神を証しする絵を描きたいと願っている。主を証しする絵とは、光を描く事と考える。光が当たっている所に色々な色が見える。絵の具の色は光の色ではないが、光が見えている証しとして絵の具をカンバスに定着させたいと願っている。

「わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます」Ⅱコリント4章18節

教会の近くに住む教会員が召天され、当然キリスト教の葬儀が行われた。葬儀にはこの近所の皆さんも多く参列された。所用で電気屋さんに寄ると、葬儀には列席されたと言われ、キリスト教のお葬式はよいものですね、と言われる。お話も良く分かりましたとも。

葬儀は召天された方の証を示されるのであるが、それと共に社会の人々に聖書のメッセージを伝えることができる。伝道が深まることももある。

そして、葬儀と共に一般の皆さんにメッセージを示すことができ

るのは結婚式である。

幼稚園の先生が結婚することになり披露宴に招かれた。相手の彼は小学校の先生である。彼の主賓は校長先生で、僧侶でもあるとい

人々へのメッセージ

うことである。教育者であり、宗教家である校長先生は、さすがに感銘深く祝辞を述べられた。終わるとき、随分長いなあと思った。次に花嫁さんの主賓である園長(牧師)の祝辞である。園長は、

キリスト教主義幼稚園で働いた彼女が、聖書に基づき、一人の存在を大切にしながら子ども達と関わったことを話し、そのことからレギオンを宿す人を例にした。イエス様は二千匹の豚を犠牲にして、一人の存在を大切にしたいことを示したかった。どうやら校長先生以上に長祝辞になったようである。

その後、また幼稚園の先生が結婚することになったとき、豚の話はしないで大いね」と言われしてしまう。はて、それでは雀の話でもしようか。

(教団総会書記 鈴木伸治)